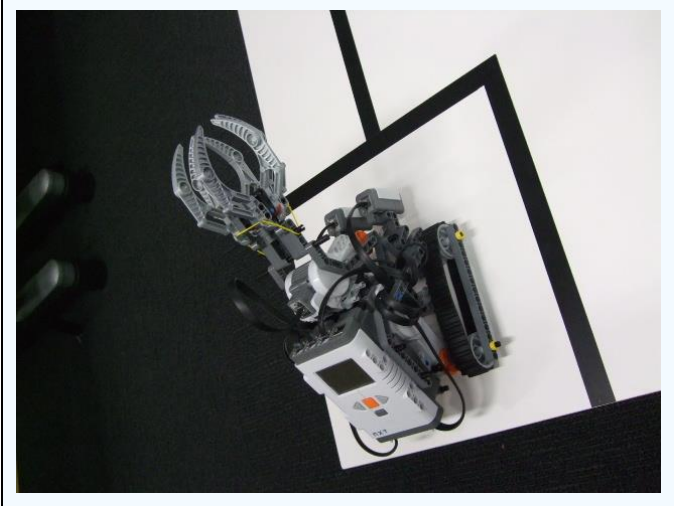


テーマ： 『ICT技術を活用した理科教育』

厚木市立 三田小学校

Tel. 046-241-1040 担当者 直島 博和



■実践内容:

三田小学校では、ICT技術を活用した理科教育の一貫として、ロボットクラブを立ち上げ、神奈川工科大学吉野研究室と連携して活動を行っている。本年度は、日産科学財団の助成金を活用して、レゴブロックを活用したロボットであるレゴマインドストームと拡張キットを購入し、クラブ活動を進めてきた。主なクラブでの活動は、レゴブロックを活用したロボットの組み立てとパソコンを使ってのプログラミングである。その中で、WRO(ワールド ロボット オリンピア)日本大会を目標に、年間11回のクラブ活動、夏休み中には、神奈川工科大学吉野研究室にロボット講座を開催していただき、ロボット制作を行ってきた。8月5日(木)には WRO JAPAN 厚木市予選会に参加をした。予選を勝ち抜くことはできなかったが、子どもたちはいくつかの課題をクリアし、大きな拍手をもらうことができた。

■実践成果:

ロボット製作やプログラミングを通して友だちと協力し、コミュニケーションをとりながら課題を解決していくことで科学的な思考を高めることができたと考えている。また、同時にWRO(ワールド ロボット オリンピア)日本大会に出場するという具体的な目標ができたことで、目標に向かって、友だちと協力して活動し、クラブの時間や、ロボット講座の時間が児童間のよりよい人間関係を育む場となった。このように、助成金を活かし、普段の授業ではなかなか取り組むことができないロボット製作やプログラミングにチャレンジすることによって、理科の工学的分野に興味・関心を持たせることができ、理科好きな子どもたちの育成へとつなげていくことができたと考えている。

今後も、理科好きな子どもたちの育成を目指して、継続して取り組んで行きたいと考えている。

■実践ポイント:

普段の授業ではなかなか取り組むことができないロボット製作やプログラミングにチャレンジすることは子どもたちの理科に対する興味・関心を高める上では大変有効であった。この取り組みは、小学校単独で推進するのは難しいのが実情であると考えられるので、本校のように地域の大学や高校等と連携して、取組みを広げていくことが必要であると考えている。